



本年もよろしくお願いします

遅ればせながら、あけましておめでとうございます。
昨年1年間はコロナに明け暮れた感がありました。今年こそ佳い年になりますように。

そう言いながら、新年早々の緊急事態宣言です。「鎌倉市学校継続ガイドライン」(19日配付)も緊急事態宣言仕様に変更されました。「学校の日常を取り戻す」のも一時お休み、今まで以上に感染症対策に力を注いでまいります。明けない夜はない、止まない雨はないと言います。何卒ご理解をよろしくお願いします。

ガイドライン・主な変更点や重要な部分

* 感染症対策を行なった授業(例)

- ・体育：十分な身体的距離を確保できない状況においては、十分な呼吸ができなくなるリスクがある場合を除いて、マスクを着用する。
- * 学校行事等について
 - ・校外学習、遠足等については、緊急事態宣言が神奈川県に発令されている間は実施しない。宣言解除後については、対策を講じた上で、実施することを可とする予定。
 - ・入学式・卒業式については、現在の状況を鑑みて、出席者は、当該学年児童、教職員、保護者(各家庭1名以内)で実施する。

なお、1月28日に予定しております**入学説明会**については、会場を特活室から体育館に変更し、感染症対策を講じた上で**予定通り実施**いたします。ホームページにも同様の情報を掲載しておりますが、お知り合い等で新1年生児童の保護者の方がいらっしゃいましたら、お声かけいただけると助かります。よろしくお願いします。

鎌倉市立富士塚小学校 学校だより 1月号

令和3(2021)年 1月22日(金)

校長 市川 昇一郎

富士塚小 学校教育目標

豊かな人間性を持ち、
たくましく生きる子の育成



校内書初め展(非公開)

18日から校内書初め展が始まりました。感染症拡大防止のため、残念ながら保護者の方にご覧いただくことができません。

せめてもと思い、6年生の力強い新年の決意を込めた四字熟語をご紹介します。是非ご覧ください。





2021 年度 学級数の見通し

12 月、新聞に「公立小学校、35 人学級実現」の見出しが躍りました。来年度から、順次 35 人学級を実施し、2025 年度には全学年で実現する、というものです。

ですが、よく読むと手放しで喜ぶわけにはいきません。その理由は、

- ① 来年度の新 2 年生以下の学年にしか適用されない。
- ② 教員全体の人数はほぼ増えず、専科等で配置している教員を削り担任にする、という意味だから。

本校では、現 1 年生がこの恩恵を受け、学年で 36 人を下回らない限り、2 クラス体制を維持できます。

現時点での来年度の学級数の見通しをお知らせしておきます。

新学年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
クラス数	1	2	1	1	1	2

今後の児童転出入の情報がありましたら、お早目にお知らせいただけるとありがたいです。一人の増減が学級数に影響することもありますので、どうぞよろしくお願いいたします。

☆ 2 月 おもな行事予定 ☆

- 2 月 1 日 (月) 教育相談員来校日
- 2 日 (火) スクールカウンセラー来校日
- 12 日 (金) 給食費引き落とし日 (2・3 月分)
テストメール配信
ふじ組お別れ遠足 (予定)
- 16 日 (火) クラブ活動 (予定)
- 18 日 (木) 教育相談員来校日
- 20 日 (土) 自転車教室 (予定)



ティータイム

知人から箱根駅伝グッズ一式をもらいました。せっかくなので、登校の見守り時に「箱根駅伝」コートを着て、校長室には「箱根駅伝」カレンダーを置いています。「ぼくのパパ、駒大出身!」「青学復路すごかったね」「ヴィンセント 14 人抜きだよ」などと反応してくれる子もいます。

「関東の大学しか出場できない」「スポーツではなくエンタメ化している」「コロナ禍でも開催」などと批判も少くない箱根駅伝ですが、私は大好きです。毎年 1 月 2 日～3 日は泣きっぱなし、懸命に走る若人たちからたくさんのエネルギーをもらって、一年のスタートを切ります。

今年は波乱含みで、新鋭校の創価大が往路優勝。復路も勢いは止まらず、最後の鶴見中継所では 2 位と 3 分 19 秒差。多くの人が創価大の優勝を確信したことでしょう。

ところが、やはり勝負は最後までわかりません。10 区で劇的な大逆転があり、駒澤大の優勝となったのです。逆転優勝の立役者・石川拓慎選手 (駒大・4 年) の走りはもちろん素晴らしかったのですが、私は逆転を許した小野寺勇樹選手 (創価大・3 年) のメンタルが気になり、ふだんあまりチェックしないツイッターを見てしまいました。

そうしたら、小野寺選手は「ごめんなさい。全部受け止めて来年強くなって戻ってきます。これからどうか創価大学の応援よろしくお願いします」とツイートしていました。彼はどうやら大丈夫です。来年に期待しましょう。

また、留年してまで 5 区の山登りに賭けた竹石尚人選手 (青学大・4 年) も結果を残せませんでした。青学の連覇の夢も潰えました。でも、終了後の原監督の言葉が温かったです。「ここから彼の新たな人生は始まる。全力を尽くした者の挫折は次へ向かうバネになる」

毎年箱根駅伝からは多くのことを学びます。今年はこれです。「挫折は人生のバネに」——そうです、彼ら学生たちの人生はまだ始まったばかりなのです。まして、われわれがお預かりしている子どもたちは、まだ小学生。昔から言うじゃありませんか、「失敗は成功のもと」——子どもたちを長い目で見てあげたいものです。